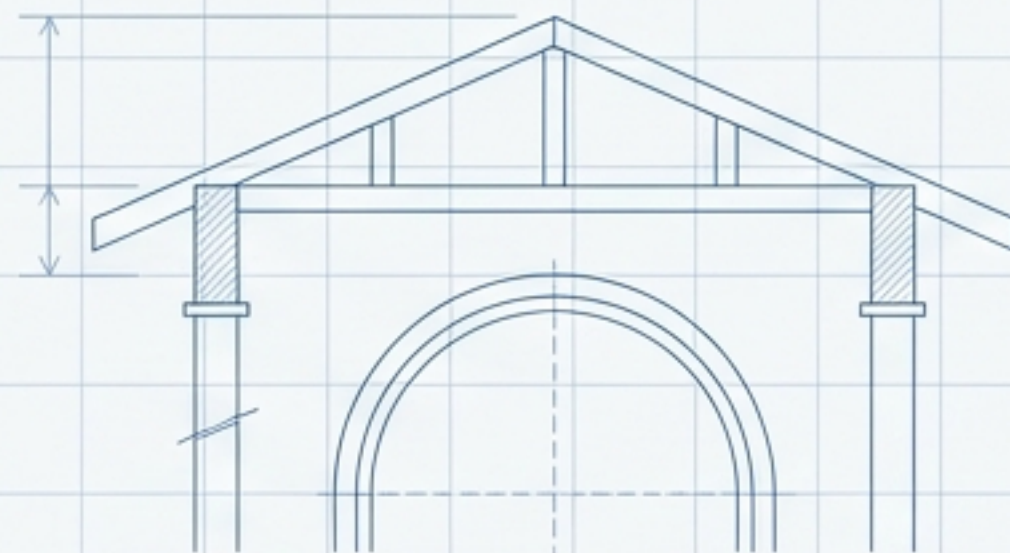
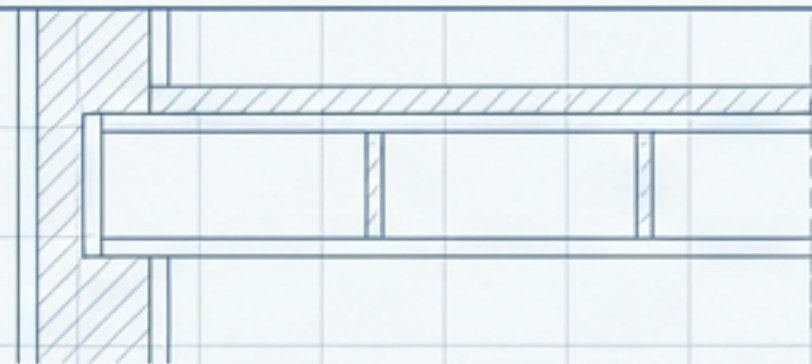
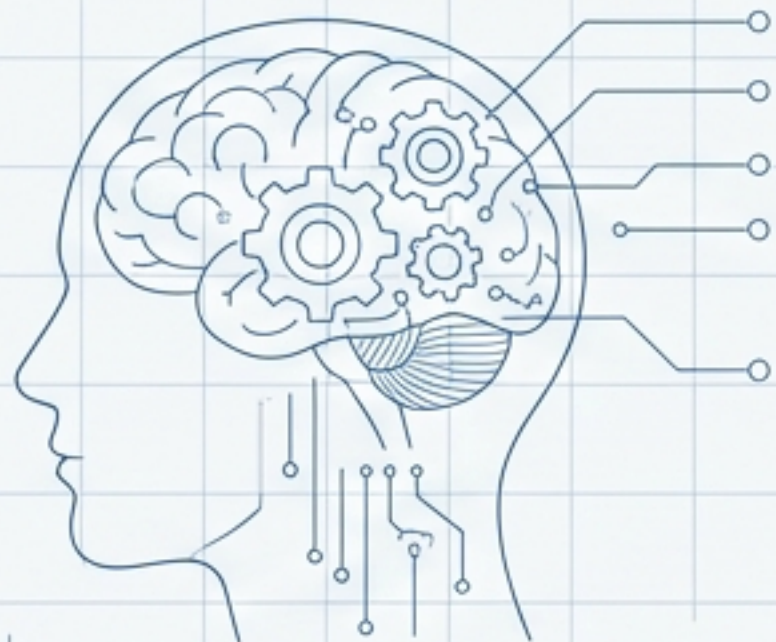
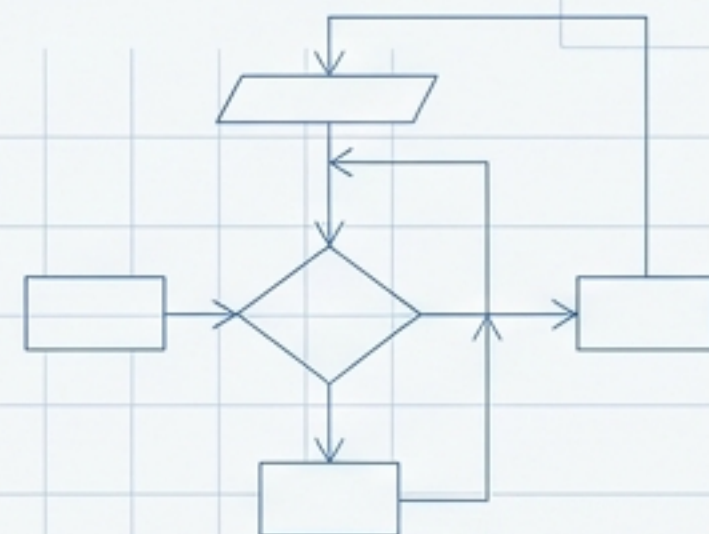
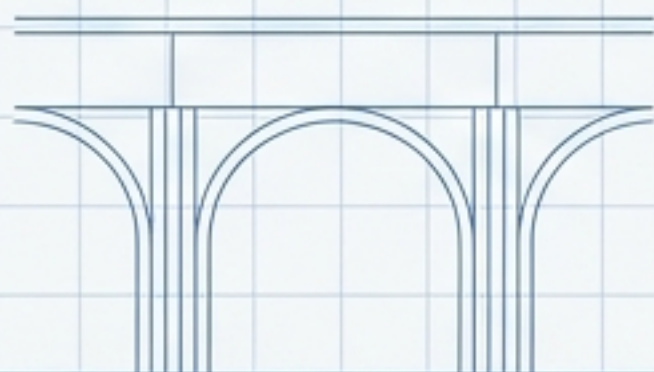
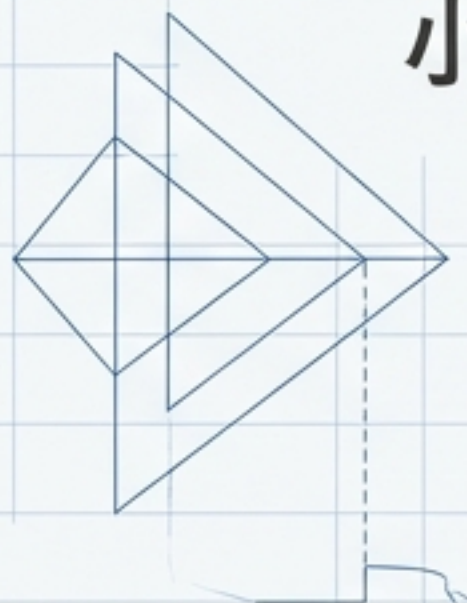
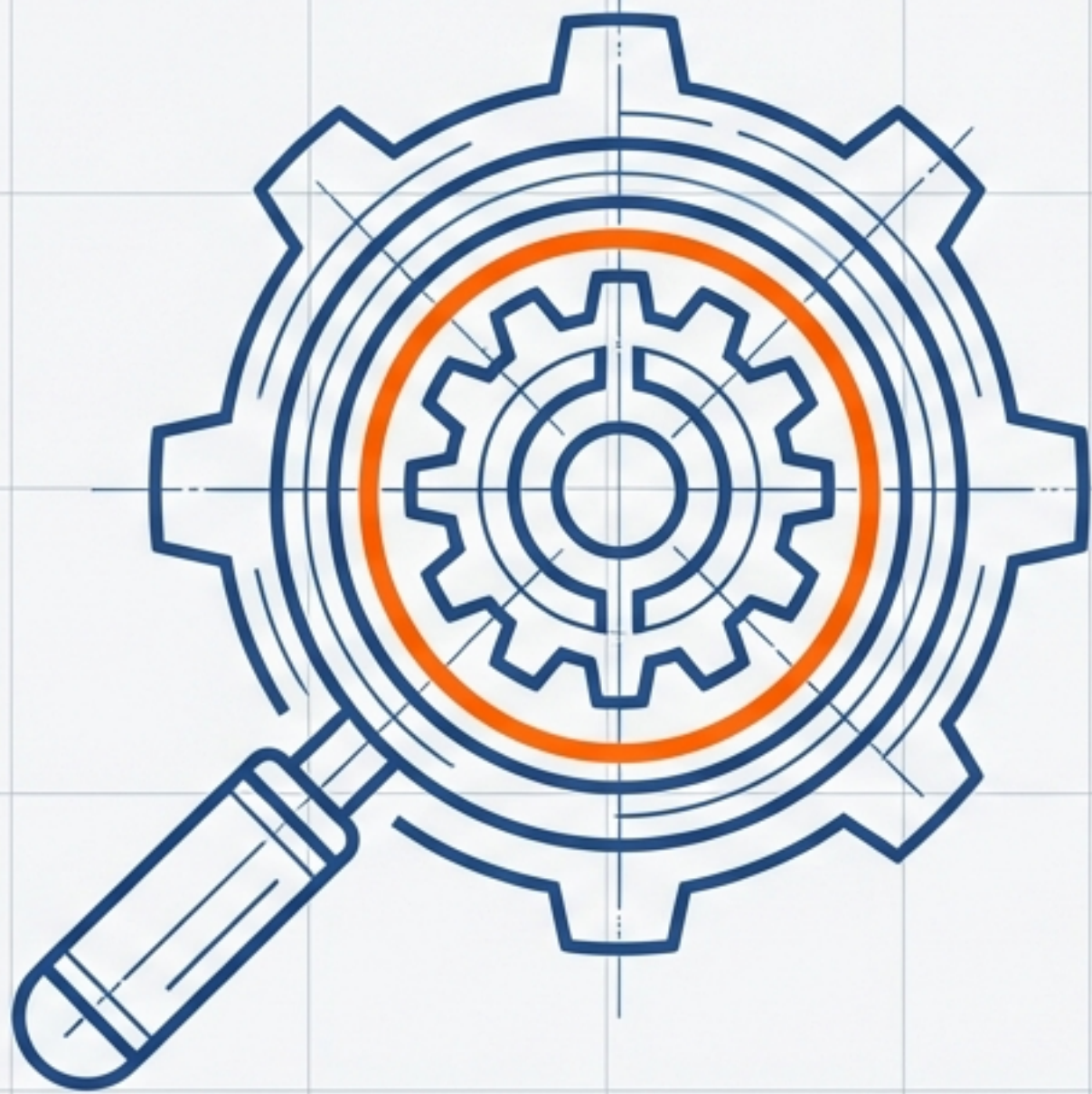




自身の成長を設計する： 資質能力の構造化という名の青写真

小中連携教育コーディネーターを目指す、経験豊かな先生方へ





なぜ今、「資質能力の構造化」が求められるのか？

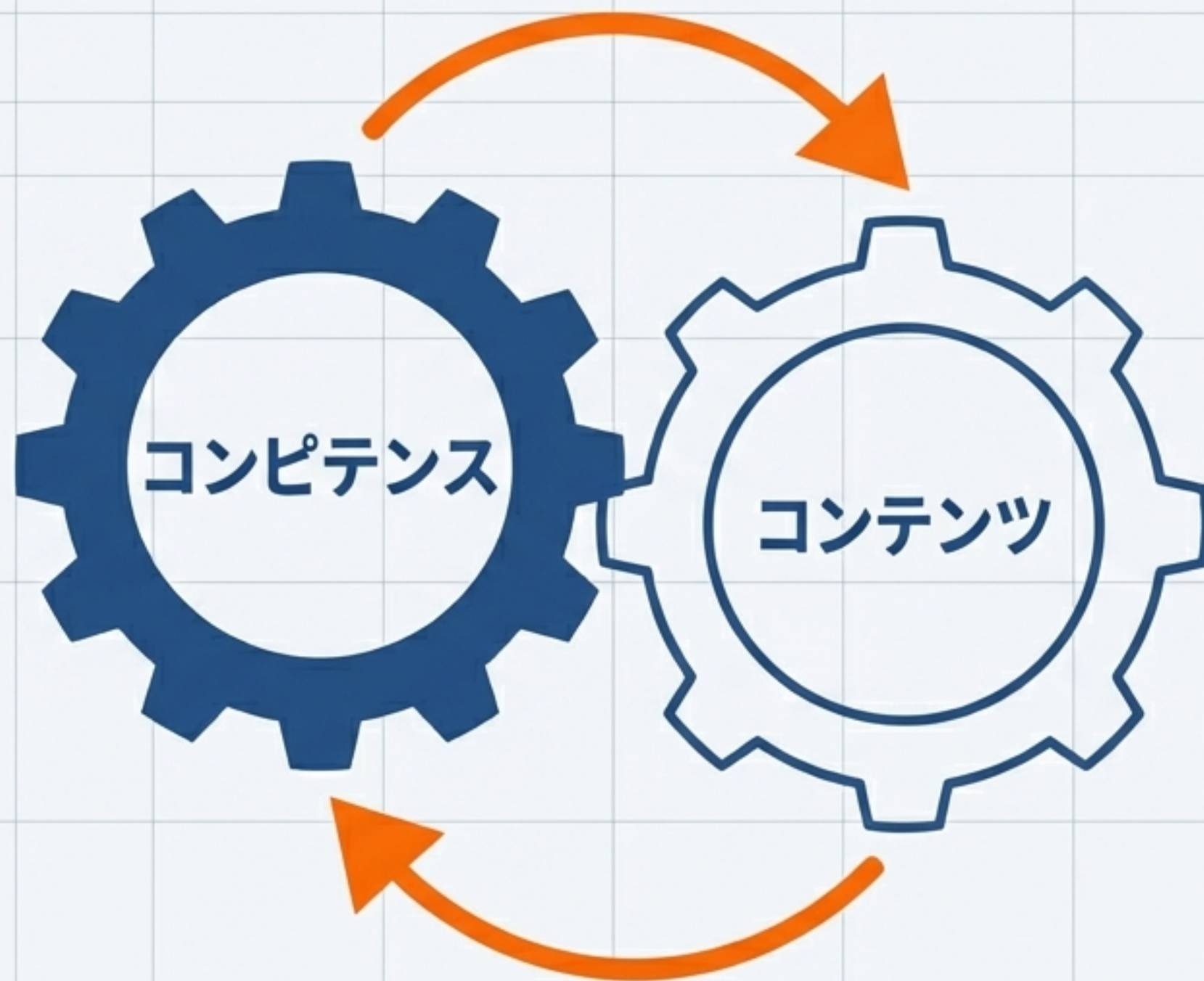
複雑化する教育現場において、自身の専門性を客観的に捉え、キャリアを戦略的に構築するために。この研修では、そのための「思考のフレームワーク」を提供します。

本講座は、在職3年以上の教員、すなわち岐阜県のキャリアステージにおける【資質向上期】にある先生方を対象としています。豊富な実践経験を、次のステージへと引き上げるための体系的な視点を獲得しましょう。

成長のエンジン：コンピテン스와コンテンツの相互作用

資質能力 (コンピテンス)

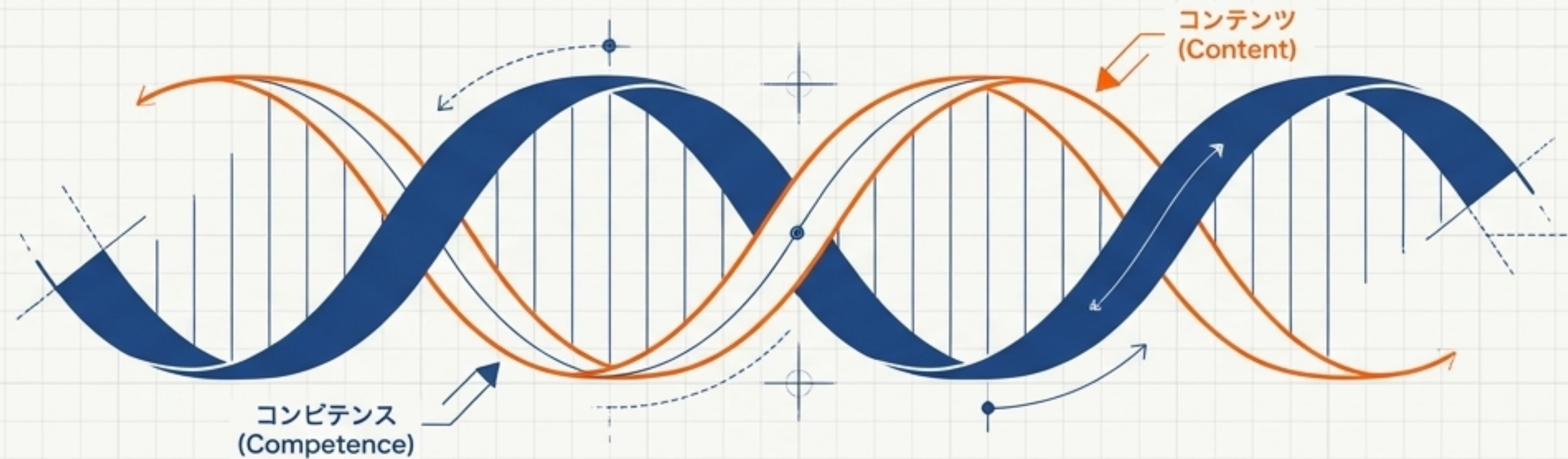
教科を横断して育成される、内的な傾向・態度・能力。変化する状況に対応し、新たな学びを創造する力。



教科の内容 (コンテンツ)

学ぶ順番が想定された系統性により、着実に積み上げられる知識・技能。

「知っている」と「できる」を繋ぐ架け橋



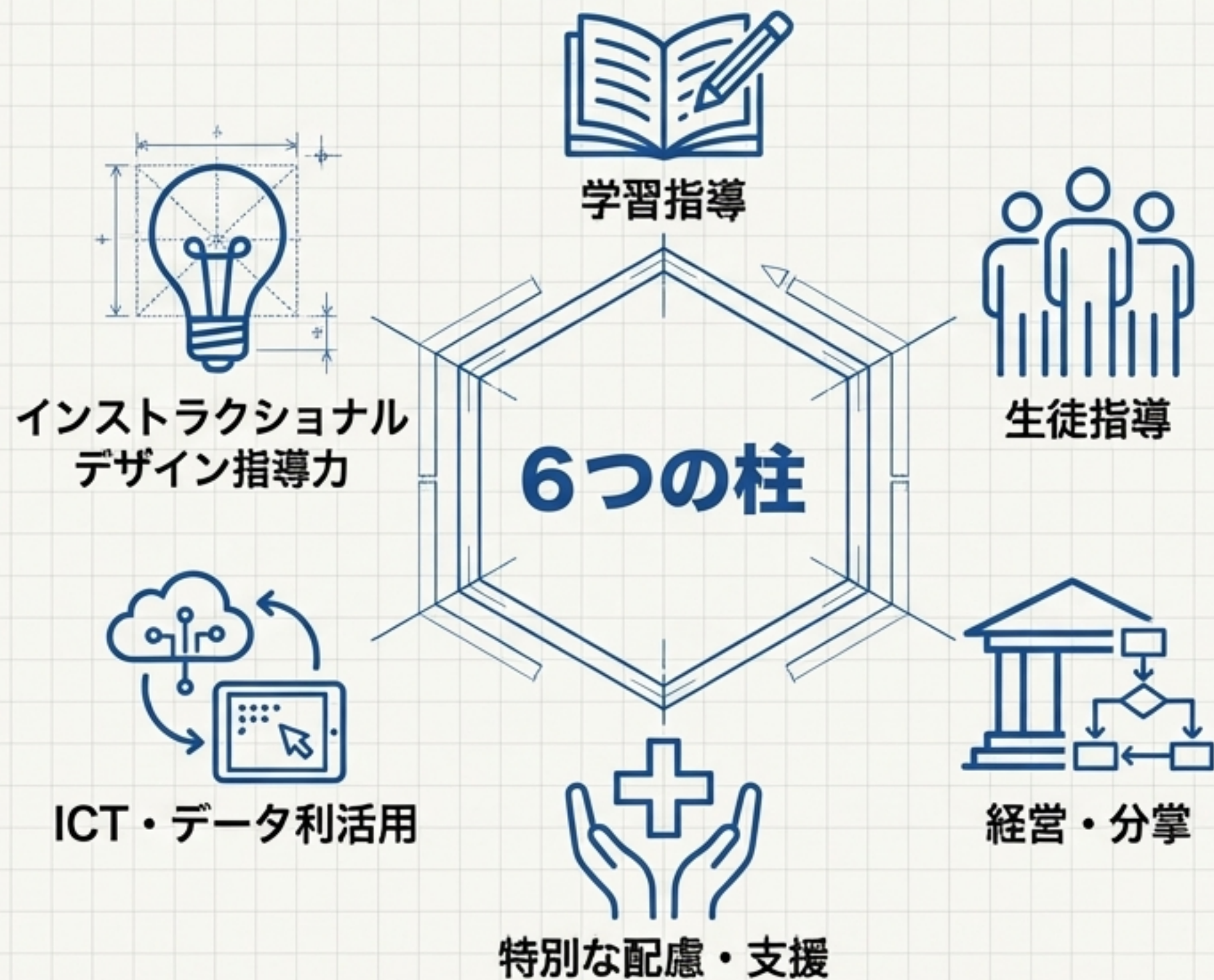
コンピテンスとコンテンツは、どちらが先にあるものではなく、子供たちの学びを通して、また我々自身の専門性開発を通して、常に相まって学ばれていくものです。

「社会における問題解決はその両面を必要とする。内容があって解決できるが、コンピテンスが備わって新たな学びを通しての解決が可能となる。」

この講座のカリキュラムは、この2つが支え合う関係を意図して構造化されています。

コーディネーターに求められる6つの資質能力

【資質向上期】にある中学校教諭、そして小中連携教育コーディネーターとして活躍するために、以下の6つの領域における資質能力が指標とされています。これらは、あなたの専門性を構成する「柱」です。



専門性の基盤：指導の2つの側面



(1) 学習指導

- 指導要領を踏まえた、ねらいの明確な指導計画の作成
- 小中学校9年間の系統性を意識した計画
- 教科の専門性に基づき、基礎・基本を定着させる指導
- 生徒の学習状況を把握し、指導を継続的に改善する力



(2) 生徒指導

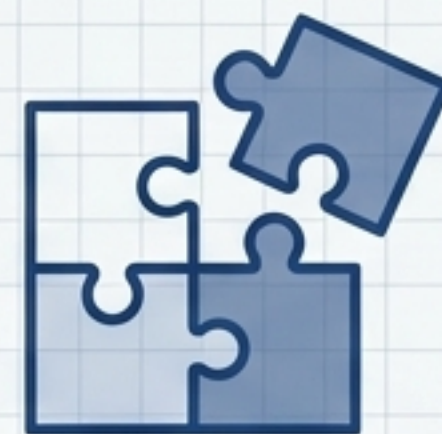
- 生徒一人一人の良さや課題を客観的・共感的に把握
- 行動の背景を理解し、個に応じた指導
- 問題行動の早期発見と、組織的・迅速な対応
- 教育課程全体を通じたキャリア教育の推進

組織の一員として：学校運営と多様性への対応



(3) 経営・分掌

- 担当校務の役割理解と、責任ある遂行
- 学校全体の課題を発見し、改善する視点
- 同僚・保護者と協力し、望ましい関係を構築
- 「報告・連絡・相談」を徹底し、安全・情報を管理



(4) 特別な配慮や支援を必要とする生徒への対応

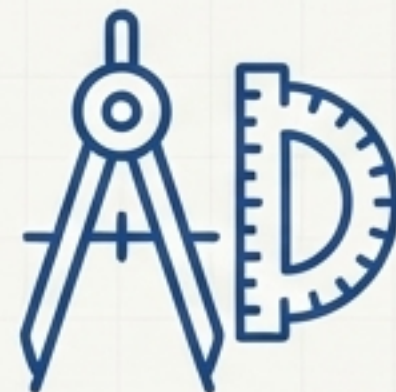
- 一人一人の教育的ニーズを把握し、UDの授業づくりに活かす
- 多様性を尊重し、共に成長する集団づくり

未来を拓く力：テクノロジーと学びのデザイン



(5) ICTや情報・教育データの利活用

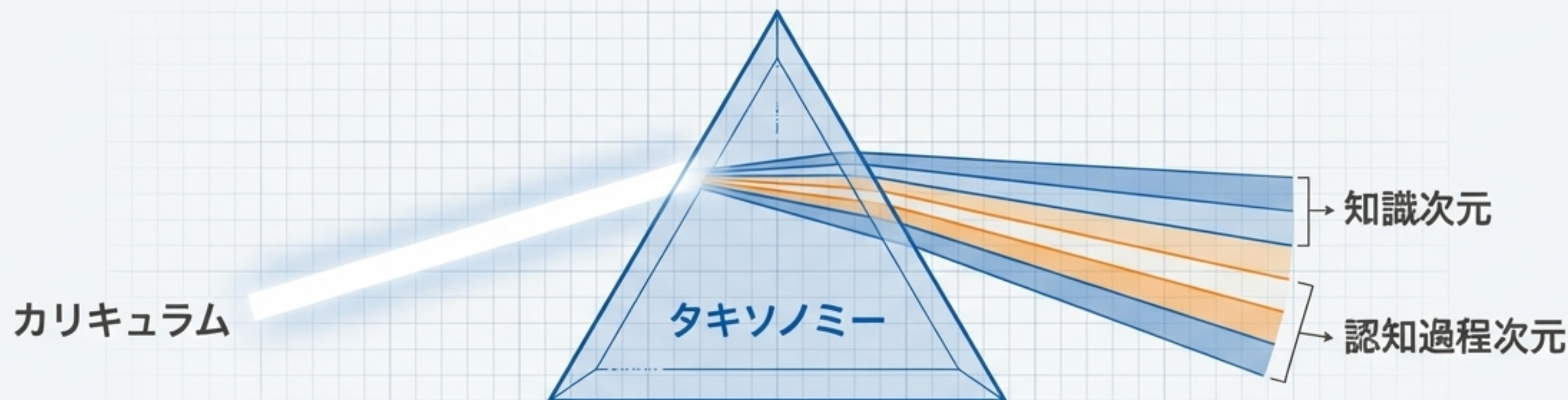
- 授業や校務における効果的なICT活用
- 生徒の情報活用能力（情報モラルを含む）の育成
- 教育データを活用した校務効率化と指導改善



(6) インストラクショナルデザイン指導力

- 自らの学びをデザインする必要性の理解
- 研修成果の評価と改善計画の立案
- 学習目標に沿ったワークショップのデザイン
- 個別最適な学びを実現するデジタル教材の活用

カリキュラムを可視化する「分光器」



優れた設計には、優れた分析ツールが不可欠です。

Introduction to the Tool: 改訂版ブルーム・タキソノミー

この「分光器」を通すことで、教育目標が「どのような知識（知識次元）」を目指し、
「どのように認知させるか（認知過程次元）」を明確に分析・評価し、第三者にも説明可能になります。

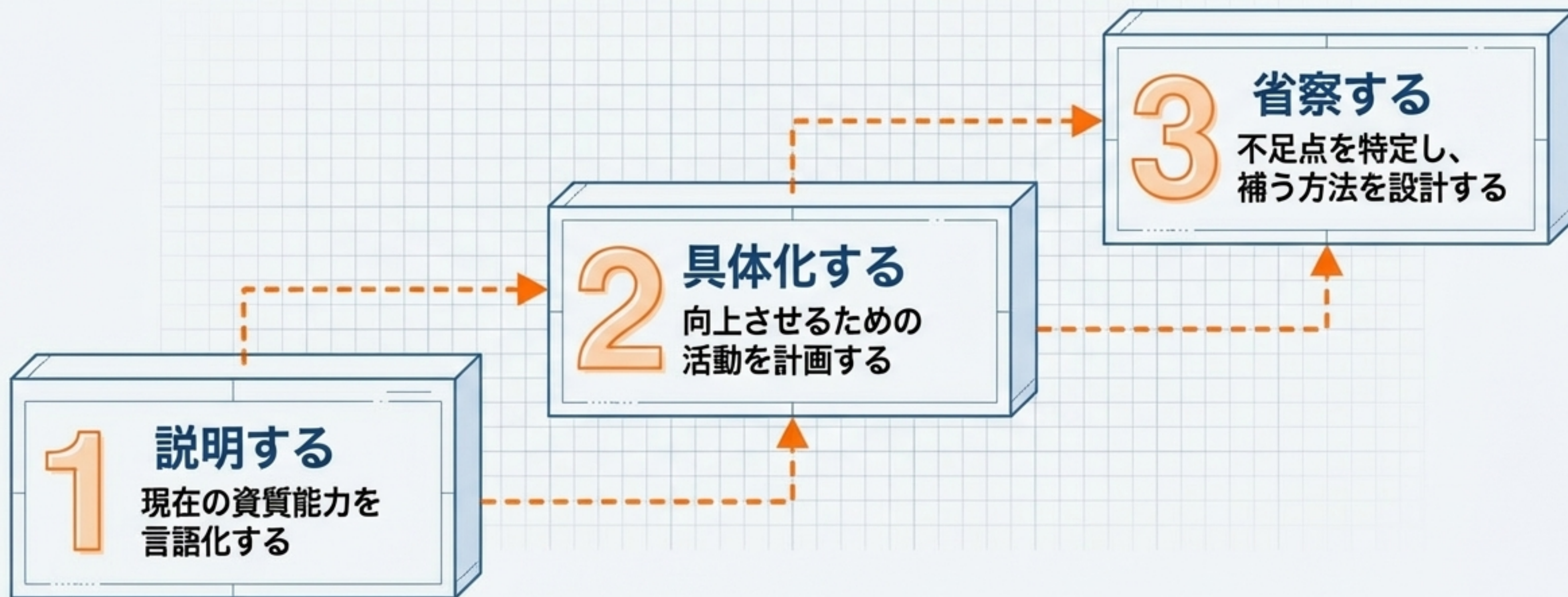
思考のレベルを捉える：改訂版ブルーム・タキソノミー

	1. 記憶する (Remember)	2. 理解する (Understand)	3. 応用する (Apply)	4. 分析する (Analyze)	5. 評価する (Evaluate)	6. 創造する (Create)
知識次元	再認、再生	解釈、例示、分類、 要約、推論、比較、 説明	実行、遂行	比較、組織、結果 と原因	チェック、判断	生み出す、計画す る、汎化

Key Takeaway: 後半の「分析」「評価」「創造」は、より高次の認知過程と位置付けられ、「探究」活動がこれに該当します。

青写真から、実践へ：自己成長のための3ステップ・アクションプラン

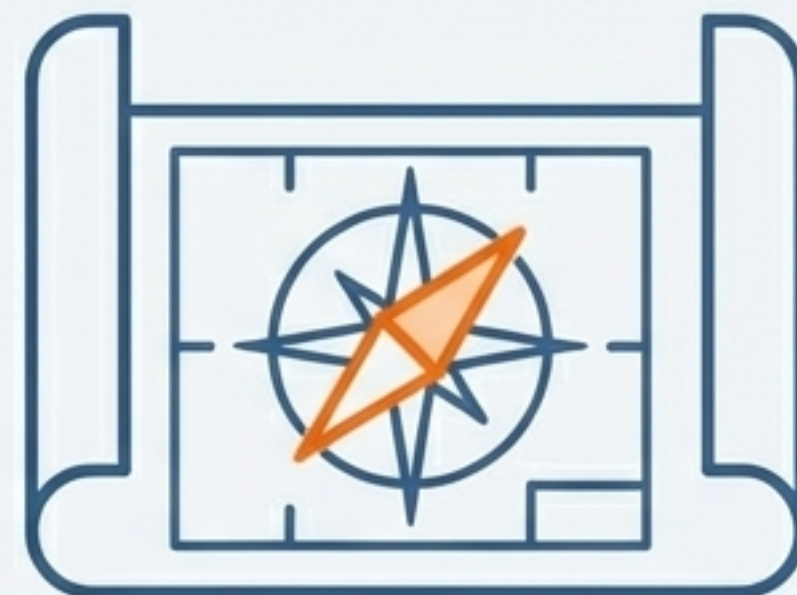
ここまで見てきたフレームワークとツールを使い、自身の現在地を分析し、未来へのロードマップを描きましょう。以下の3つのステップで、自己の資質能力をメタ認知し、向上させるための計画を立てます。



1 Step 1: 説明する - 現在地のマッピング

The Task

キャリアステージに対応した中学校教諭に求められる資質能力（6つの柱）を、自身の言葉で説明しなさい。



Guiding Question

6つの各領域について、あなた自身の経験と結びつけながら、その重要性や具体的な活動内容をどのように理解していますか？



Taxonomy Link

この課題は、タキソノミーにおける「理解する（説明）」レベルに該当します。まずは知識を確実に自分のものにすることから始めます。

2 Step 2: 具体化する - 成長へのアクション設計



The Task

6つの資質能力は、どのような活動によって向上できるかについて、具体例を挙げて説明しなさい。



Guiding Question

例えば「ICT活用能力」を高めるために、明日からできることは何ですか？
「生徒指導力」を向上させるために、どのような研修や実践が考えられますか？



Taxonomy Link

この課題は「応用する」「創造する（計画）」レベルへと思考を引き上げます。

3 Step 3: 省察する - パーソナルな成長計画の立案

The Task

自身の資質能力について自己をメタ認知し、どの部分が不足しているのか、その不足をどう補うのかの方法を説明しなさい。



Guiding Question

自分の「青写真」の中で、まだ設計が不十分な箇所はどこですか？その部分を強化するために、どのような知識、スキル、経験が必要ですか？誰に相談し、何を学びますか？



Taxonomy Link

これは「分析する」「評価する」「創造する」という高次の思考をフル活用する、自己変革の設計図です。

あなたは、自身の専門性をデザインする建築家です。

資質能力の構造化は、一度きりの作業ではありません。

それは、実践と省察を繰り返しながら、
常に更新していく生きた「青写真」です。

このフレームワークを手に、新たな学びを創造し、
子供たち、そしてあなた自身の未来を豊かに築いてください。